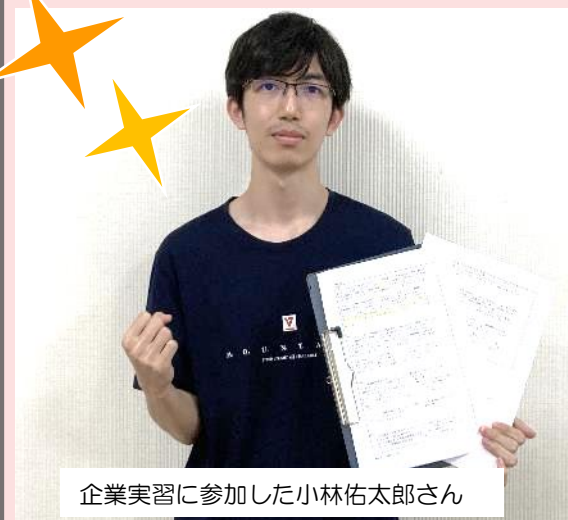
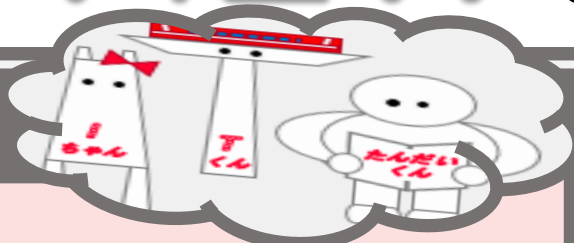


# IT短大VIEW!



## 1 企業実習で確かな成果!



企業実習に参加した小林佑太郎さん

企業実習(8月22日(月)~26(金))が実施され、二年生19名の学生が、13の企業に受け入れて頂きました。

日本システム・エイト株式会社で企業実習を行った小林佑太郎さん(勝田工高卒)に、実習成果を聞きました。

### Q 参加しての感想は?

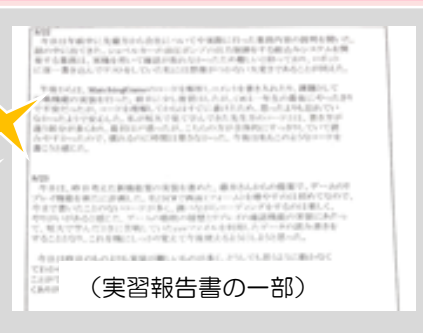
A 企業実習には、かなりやる気をもって参加しました。コミュニケーションの大切さや、実際の業務内容も知ることができました。与えられた課題は、IT短大での学びが大いに役立ちました。助言を頂きコツコツ取り組み、課題解決につなげるなど達成感が得られた実習だったと思います。

### Q 企業実習の成果は?

A 成果物発表を行い、自分だけでは、解決できなかった事項も、様々な改善案を頂くことができました。実際の業務においては、コミュニケーションと、粘り強く取り組むことの大切さを学びました。



企業実習先 日本システム・エイト株式会社



(実習報告書の一部)

## 2 データを読み取れ!

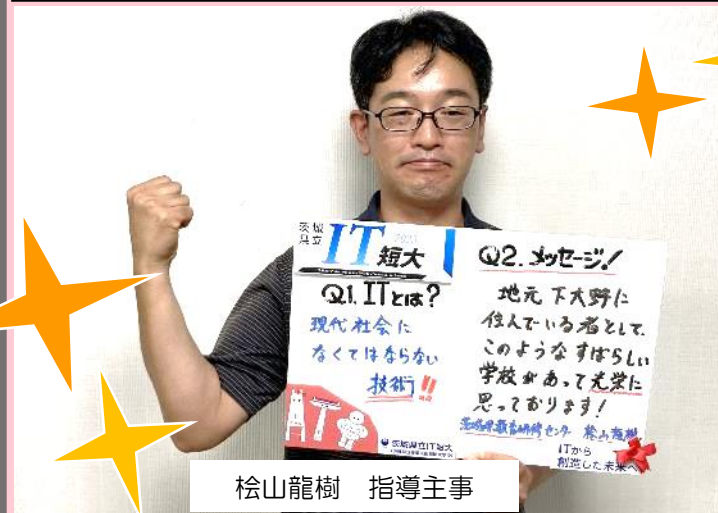


9月に入り、前期期末考査に向け授業も大詰めを迎えています。この日、大教室では、統計(「情報数学Ⅱ」:第二学年)の授業が行われていました。担当の宮田先生は「如何にしてデータを読み取るかが大切」と話されていました。

## 3 応援メッセージ

茨城県教育研修センターは、学び続ける教職員を応援します。

### 茨城県教育員研修センター



伊山龍樹 指導主事

県教育研修センターは、学び続ける教職員を応援するため、校内の学びを支援し教職員の自己啓発を促す組織です。

本校近隣にお住いの伊山龍樹指導主事は「はじめて見学しましたが、IT機器も充実しピカピカの施設設備でした。とても素晴らしい学校です」と話されていました。

## 4 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加え「社会人基礎力」向上のため、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

### <記事> 読売新聞(2022年8月6日) 「重要性を増す被爆地の役割」

#### ◇要約

●清和杏羽さん(茨城東高卒) 大国の指導者が核兵器を威嚇に使う異常事態となっている。ウクライナを侵略するロシアは原子力発電所を攻撃したりするなど核兵器の使用を繰り返し示唆している。日本は核軍縮を推進してきた。今後もそういった外交努力が必要だ。

#### ◇感想

●藤森 駿さん(熊本・玉名高卒) 私は小学生の時の修学旅行で長崎へ行き、原爆の非人道性を学びました。だから、核兵器というものがなくなればいいと思いました。これからも核兵器の利用が無いことを願います。

●藤咲なる美さん(水戸第三高卒) 核の脅威が迫ってきている。原爆の怖さを日本は知っている為、もう核は使ってほしくないと思っている。記念館を訪れる人が減っているが、原爆の悲劇を風化させないために様々な工夫をして、沢山の人がこのことを知っていて欲しい。子供に語り聞かせたりすればずっと忘れないでいられると考えた。

●小川颯斗さん(日立商高卒) 核兵器を威嚇に使ったり、戦争が起きている今、被爆地になった広島と長崎は、世界に発信する重要性はとても高いと思った。世界平和のために国際関係を強くして平和な世界になって欲しいと思った。

●山田彩乃さん(水戸啓明高卒) 核を引き合いに出す戦争程怖いものはないと思う。唯一の被爆国である日本は核の脅威を止めるために様々な事をする必要がある。事実を基に悲惨なことにならない前に動いて世界を変えないといけない。

